

今

回は、A区の説明です。今年の夏、猛暑の中、熱中症を気にしながら、調査をしました。

〔上面域〕

主軸尾根の北端部で「く」の字形をしています。全長53m、幅7・5～1・8m。南側の「高城」B区との高低差は、マイナス6m。地形の変化点に、小堀切1を刻んでいます。

〔東側斜面〕

標高49mの崖に至るまでに、3段の帯状削平地があります。

〔北側斜面〕

上位は舌状削平地(A4)、中位は緩傾斜地、下位は、標高48mから絶壁に変化します。A4は緩い造成地で、全長9・0m、幅2・5m。

〔西下①〕

上位のA5は、幅広い三日月形の造成地です。中位には、三角形削平地(A6・A7)と帯状削平地(A8)が、階段状に連なります。下位は、標高44mから絶壁に変化します。

〔西下②〕

上位にA9・A10が、尾根筋に沿って、段違いに並びます。A9は、大型の

舌状形削平地で、A10は、やや弧を描く帯状削平地です。中位は、3段の削平地(A11～A13)が、尾根筋に沿って、横並びに連なります。A11とA12は細帯状、A13は、小型の長円形をしています。下位は、標高46mから絶壁に変化します。

〔結び〕

神尾城跡の縄張り、地形的に西側の主軸尾根(C・F～I)を軸に展開します。同尾根を鋭く断ち切る大堀切(3～5)と大規模区画のG区からも明らかです。有事の際、この区域で戦闘が行われた事が分かります。

一方で、B区は、城のシンボリックな場所であり、その北側に位置するA区も、地形的に見て、第2の戦闘区域でした。痩せ馬の背中の様な細長い尾根は、小規模でも、戦略的に有利な地形でした。東側から北側の縁部は絶壁ですから、敵方を、この地域に追い込んで叩く事が出来ます。そのために、尾根の斜面部にも、詳細に手が加えてあります。

本文中で説明した造成地(13箇所)の原形は、当時の戦略的施設に他ならないと考えています。

| 場所 | 全長 | 幅       | 高低差 | 上段 |
|----|----|---------|-----|----|
| A1 | 47 | 4.0～2.0 | 1.6 | A  |
| A2 | 79 | 4.0～1.0 | 2.3 | A1 |
| A3 | 46 | 9.0～3.0 | 2.4 | A2 |

表1 東側斜面 (単位:m)

| 場所 | 全長   | 幅       | 高低差 | 上段 |
|----|------|---------|-----|----|
| A5 | 25   | 6.0～3.5 | 1.3 | A  |
| A6 | 11   | 7.5～2.6 | 1.6 | A4 |
| A7 | 9.5  | 4.5～0.7 | 3.0 | A5 |
| A8 | 13.5 | 2.1     | 2.0 | A6 |

表2 西下① (単位:m)

| 場所  | 全長 | 幅        | 高低差 | 上段  |
|-----|----|----------|-----|-----|
| A9  | 32 | 15.0～5.0 | 3.3 | A   |
| A10 | 25 | 6.0～3.0  | 1.1 | A9  |
| A11 | 19 | 4.0～3.5  | 2.5 | A10 |
| A12 | 17 | 3.5～2.5  | 1.5 | A11 |
| A13 | 17 | 9.0～3.0  | 2.1 | A12 |

表3 西下② (単位:m)

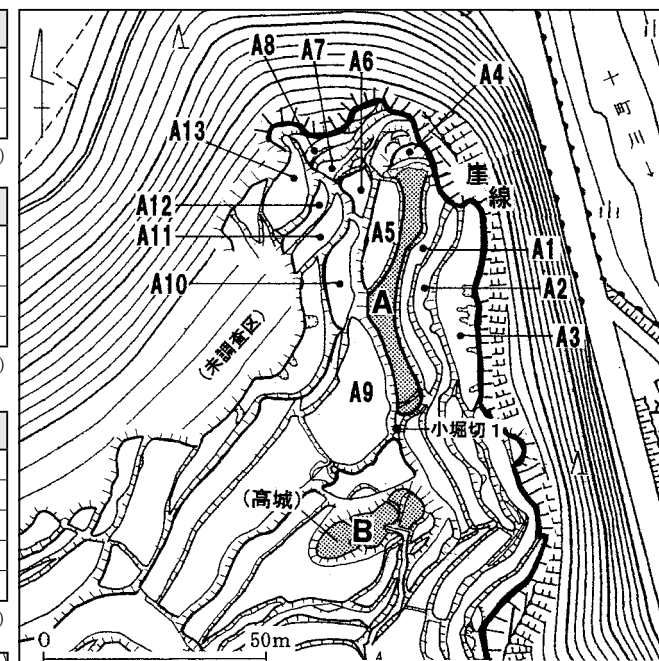


図1 A区縄張り図



写真2 A(尾根)とA9(舌状形削平地)



写真1 東側斜面 (3段の帯状削平地)

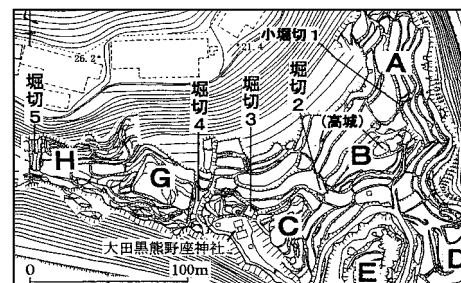


図2 神尾城跡全体図

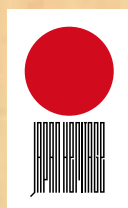


シリーズ日本遺産 ①6

菊池川流域「今昔『水稻』物語」

米作り、二千年にわたる大地の記憶

問い合わせ先  
社会教育課  
文化係  
☎0968-34-3047



菊池川 日本遺産 検索

五穀豊穡を祈るまつり①

菊池川流域では、米の豊作を祈ってさまざまなお祭りや風習が受け継がれています。

阿佐古かせいどりうち

毎年1月14日の夜、山鹿市北東の山あいにある菊鹿町阿佐古地区で行われる行事です。「かせいどり」とは長さ70センチほどのしめ縄に粟の穂を挿した作り物です。

当日の夕方、地区の子どもたちが地元の乙皇神社に集まると、顔を墨で真っ黒に塗りつぶし、かせいどりを持つて各家庭を回ります。子どもたちは玄関の戸を開けると「かせいどり、どっさりお祝いな」と大きな声を発し、かせいどりで上がり框を叩くのが習わしです。家の人は子どもたちにお菓子やお餅を渡すと、そのお返しに小さなかせいどりを

もらいます。かせいどりは家内安全と一年の豊作を祈り、神棚に供えられます。この行事は数百年続くといわれていますが、その由来などはよく分かっていません。現在は子どもが少なくなり、伝承が難しくなっているようですが、地域の子どもと大人が一緒になって守り続けられています。

長坂なれなれなすび踊り

毎年3月上旬に、山鹿市の中ほどにある長坂地区の厳島神社例大祭で奉納される、五穀豊穡を祈った踊りです。祭り当日、踊り手たちが午後8時頃から集まって、しばらくお酒を酌み交わした後、10時頃から踊りが始まります。踊り手6人と、どら打ち4人、歌い手10人の合計20人が、神社境内の舞殿で踊りを奉納します。



②長坂なれなれなすび踊り



その歴史は大変古く、中世(鎌倉時代から室町時代)までさかのぼるといわれています。起源には諸説ありますが、念仏踊りや盆踊りから始まったものとされています。(担当:山鹿市社会教育課)